

両河内周辺のまちづくり

この地区で目指す姿

豊かな自然の中で学び、働き、交流しながら、安心して暮らし続けることができるまち

実現に向けた主な取組

1. オクシズパーク整備

- 旧西河内小学校を活用し、宿泊や体験、交流機能を備えた拠点を整備することで、地域への滞在時間や関係人口の拡大を図ります。

2. 清水森林公園再整備

- 豊かな自然を活かした体験や学びの場を充実させるとともに、民間活力を活用した魅力ある施設整備を進めます。

3. オクシズ各地域ビジョンの策定

- 地域資源や地域特性を活かした将来像を地域とともに描き、持続可能な地域づくりを推進します。

こんなことが実現されます

- 豊かな自然の中で、遊びや学び、体験活動を楽しめる機会が広がる。
- 地域内での滞在時間や交流が増え、新たな仕事や雇用の創出につながる。
- 地域資源の価値が高まり、地域の魅力を市内外へ発信できる。
- 子育て世代をはじめ、多様な世代が住み続けたい、訪れたいと感じる地域づくりにつながる。

両河内周辺図

凡例： ハードの取組 ソフトの取組

※各取組の詳細は取組名をクリック！



オクシズパーク整備

取組概要

旧西河内小学校を活用した観光拠点で、市民は働く・学ぶ・交流する場を身近に利用できるようになる。

- ・ 両河内地区には宿泊施設が少なく、来訪者の滞在時間や地域内での消費が限られています。また、中部横断自動車道スマートIC開業を見据え、広域から来訪者を呼び込む観光拠点が求められています。
- ・ 民間事業者が宿泊、飲食、子どもの遊び場などを備えた観光拠点を運営します。行政は、施設整備への支援や関係機関との調整など、取組の下支えをします。
- ・ 来訪者の滞在時間と観光消費を増やし、地域内に新たな仕事や雇用を生み出すことで、地域経済の活性化と担い手の確保につなげます。



今後の予定

	2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
施設整備										
供用開始										

取組概要

両河内地区の観光施設である清水森林公園を再整備し、地域振興の核としての機能を高めることにより、市民は自然を楽しみ、学び、働き、地域を発信する場を身近に利用できるようになる。

- 清水森林公園は、オクシズ観光資源の核として地域の価値を高めてきたが、開園から約35年経過して園内施設の老朽化が進み、一部の施設が利用できません。
- 民間活力導入可能性調査を行いPFI等による整備手法を検討し、環境教育を軸に民間のノウハウを活用した再整備を行い、魅力的な空間を創出します。
- 老朽化した施設の配置を最適化し、収益性の高い施設への転換も含む再整備を行うことで、市民は安全で便利な施設、新しいサービスや働く場、地域交流と経済的な恩恵を受けられるようになります。



黒川キャンプ場

今後の予定

2026年	2027年	2028年	2029年	2030年	2031年	2032年	2033年	2034年	2035年
民間活力導入可能性調査									
用地測量、不動産鑑定									
	用地交渉、用地取得								
	整備手法事業アドバイザー支援								
		PFI等による再整備		供用開始					

⑧環境・森林

目指すべき未来像

人が自然とともに生き地域の暮らしや文化を守りながら魅力を育み、脱炭素社会の実現と経済の活性化が両立した持続可能なまち

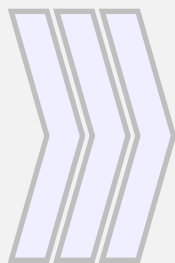
現状と課題

・温暖化による災害の激甚化が進む中、2050年カーボンニュートラルは、従来型の取組では達成できません。カーボンニュートラルの実現には、徹底した省エネや再生可能エネルギーの普及、資源循環を革新的技術で加速することで環境と経済の両立を図るグリーントランスフォーメーションが不可欠です。

・人口減少が進む中山間地「オクシズ」では、自然と共生する暮らしや文化が残る一方、担い手不足や高齢化による地域の活力低下が課題です。自然や文化などの地域資源が「オクシズの魅力」として広く認知され、地域資源を活かした暮らしを守りながら、人が集まる仕組みづくりが必要です。

・市域の約76%を占める森林では荒廃が進み、災害リスクの増大に加え、生態系の劣化、水源涵養機能の低下、土壌流出、地域経済や景観への悪影響など、複数の問題が相互に関連し、深刻化するおそれがあります。木材供給に加え、山地災害防止や水源涵養など公益的機能を重視した管理が求められます。

課題解決のための
具体的な取組



静岡市ネイチャーポジティブ の推進

★取組概要

損なわれた自然を保全するだけでなく、回復させ、豊かにしていくというネイチャーポジティブ(自然再興)に貢献する取組を実施することで、自然と共生する社会の実現と経済成長を目指す。



純系ヤマイトワナ

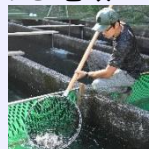


南アルプスの風景

地域おこし協力隊の活用

★取組概要

地域おこし協力隊を導入し、地域の活動を支援するとともに、移住者として地域へ定着することを支援する。新しい仲間が加わることで、将来も安心して暮らせる活気ある地域づくりが進む。



アマゴの養殖をする
協力隊員



耕作体験の提供

オクシズ各地域ビジョンの 策定

★取組概要

両河内周辺

オクシズの各地域に点在する資源を統合的に活用・発信していく。自分たちの地域にある魅力の価値が再評価され、誇りや愛着が深まる。



廃止施設の活用
(井川湖畔遊歩道)



在来野菜の販売